睡足軒（すいそくけん）の森を整備しています

第２号　平成 30 年６月１日
新座市教育委員会　生涯学習スポーツ課

日本建築の屋根には、様々な素材が使われています。茅葺き以外にも、代表的なものとしては瓦葺き、檜皮（ひわだ）葺き、柿（こけら）葺き等があります。

瓦葺き　市内：普光明寺山門

銅板葺き　市内：平林寺半僧門

檜皮葺き　香取市：香取神宮本殿

柿葺き　川越市：喜多院客殿

茅葺き（虎葺き）　青梅市：旧宮崎家住宅

藁葺き　東久留米市；村野家住宅主屋

神社仏閣の屋根には高価で重い瓦が用いられますが、庶民の家は簡単に手に入る草葺き（茅・藁）でした。松永耳庵も、古民家の素朴さが気に入ったようです。

貴重となった茅原　写真協力：(有) 熊谷産業

ちなみに、茅という植物はありません。アシ (ヨシ) やススキ等の植物が、屋根の材料になると茅 (萱) 材と呼ばれます。かつてはどこにでも生えていた素材でしたが、各地で開発が進んだ結果、産地が限られてしまい、睡足軒の新たな茅材・アシも、遠く宮城県石巻から運ばれてきています。睡足軒の屋根の規模で、４ｔトラック４～５台分の茅材が必要です。

近世・近代の野火止地区では、麦がよく栽培されていたことから、麦の藁を葺いた民家もあったと伝わります。

搬入された茅材

垂木を交換する

下地を組む

ヨシズの上に茅材を並べる

さて、新たな茅を葺いていく作業が始まりました。ここではその手順を見ていきます。

まずは屋根の下地の修理からです。長年屋根を支え続けて傷んだ垂木を交換します。

続いて、篠竹を横方向に組み、垂木に縛り付けていきます。網目が細かくなり、茅材の下地ができあがりました。睡足軒ではさらに、軒周りだけがヨシズで覆われていました。古い割り竹 (真竹) の下地は傷んでいたため、一部交換しています。

いよいよ茅材を載せていきます。茅の根元が下に来るようにして端を整え、７～８寸程の幅ごとに縛り、束にして置いていきます。

茅材をまとめて縛る

端部を整える

軒先から棟へ葺いていく

ある程度の幅になったら、茅の束の上にオシボコダケ（押鉾竹）を横に渡し、麻紐で垂木に縛り付けていきます。非常に固く縛るため、先に茅材の端を叩いて整えておきます。この作業の際に、完成時の屋根の形が決まっていきます。

軒周りでは内側に短い材を置き、外側に長い材を重ねて、屋根の形を美しく整えていきます。最初に軒先を決め、棟に向かって茅材を積み重ねていく作業が続きます。

なお、茅材は自然素材ですので、10 年で部分修理、30 年で全体修理が目安と言われております。

次号もお楽しみに。